

自然災害とナチュラルヒストリー

主催 自然史学会連合 共催 栃木県立博物館

東日本大震災は、地震、津波、原子力発電所事故が相まって甚大な人的・社会的被害をもたらした。さらに、自然環境への影響も大きく、それは現在もなお続いている。津波や原発事故などが生態系に及ぼす影響といった震災に直結する話題はもちろん、有史以前から火山の噴火や大規模な気候変動などをくりぬけて生きてきた我々人類を含む生物の営みについて、自然史系科学の第一線で活躍中の研究者が解説する。さらに、この震災で被害を受けた博物館資料のレスキュー事業についても紹介する。

講演会プログラム



10:15-10:45
数 100 年おきに繰り返す
大津波—その時、生物は？
大越 健嗣（東邦大学）

10:45-11:15
東北地方太平洋地震とそれ
に伴う津波が沿岸生態系に
与えた影響
河村 知彦（東京大学大気海洋研究所）

11:15-11:45
標本レスキューの実際～津
波に遭った自然史標本を救
う試み
鈴木 まほろ（岩手県立博物館）

12:45-13:15
東アジア新生代の植生と気
候変動の歴史—科博の植物
化石コレクションから
矢部 淳（国立科学博物館）

13:15-13:45
貞観 16 年 3 月の開聞岳噴
火をめぐる
鷹野 光行（お茶の水女子大学）

13:45-14:15
火山噴火と人々の生活—北
関東地方の噴火災害史を中
心に
早田 勉（火山灰考古学環境研究所）

14:30-15:00
森林生態系における放射性
核種の移行
恩田 裕一（筑波大学）

15:00-15:30
河川生態系とカタストロ
フィー、アユの視点から
井口 恵一郎（長崎大学）

15:30-16:00
富士山の噴火予知と被害想
定の研究
佐野 貴司（国立科学博物館）



写真提供：大越 健嗣、河村 知彦、鈴木 まほろ、矢部 淳、鷹野 光行、早田 勉、恩田 裕一、井口 恵一郎、佐野 貴司（敬称略）

日時 2012 年 12 月 1 日（土）

10:00 ~ 16:30

会場 栃木県立博物館 講堂

※予約不要・参加費無料・定員 200 名

お問い合わせ：栃木県立博物館 028-634-1311
栃木県宇都宮市睦町 2-2



JR 宇都宮駅→駅西口バス停
東武宇都宮駅→大通り沿い「東武駅前」バス停

◇関東バス
「桜通り經由鶴田駅」または「桜通り經由西川田駅」で「中央公園博物館前」下車（地図★）

◇「長坂經由鹿沼営業所」で「文星芸術大学付属中高」下車（地図★）